

Campus Today



新年度の更なる進化をめざす



本学における教学の動向

学長 小澤 英浩

大学を取り巻く社会環境が、さらに厳しさを増しつつある昨今、教育方法や変革が一層求められ、大学が学生の持つ可能性をいかに引き出すかが大きな課題となっている。新年度を目前に控えて、このほど二〇〇六年度の新カリキュラム決定と併せ、松本歯科大学は新たな指針を発表した。大きく変わる教育制度や医療制度を見据えて、新年度は本学の新たな試みがスタートする。

二〇〇六年度は、全国の歯科大学にとり、大きな変革を迫る要となるにちがいない。ひとつは、全国共用試験CBT、OSCEの導入である。二つ目は、卒業臨床研修の義務化であり、将来開業を目指す若き歯科医師にとっては必須の新

制度である。いずれも、歯科医学教育をワンパターン化させるおそれがあるとは言っても、その成績評価は各歯科大学のフォーマットを問われる指標ともなりかねない。

また、わが国教育界により二〇〇六年問題として取り上げられているいわゆる「ゆとり教育」の影響を受けた高校生が新入生として初めて本年度入学してくる。よって入学生の学力は一層多様化することが予測されている。したがって未履修科目などを含め学生の実態に合わせた基礎学力の支援教育は不可避の重要課題となってきた。まさに、大学教育に必要な基礎知識は大学自身で学ばせる時代に入ってきたことを認識しなければならない。

現象ではあるが、その問題解決に当たってはそれぞれの大学が各自の建学の理念に基づいて対処せざるを得ない。本学においても、従来より教育体制の改革や教員による不断の努力と工夫など、さまざまな改善を続けてきたことは周知の事実である。新年度は、このような新しい事態に備えたさまざまな検討結果が具現化する重要な節目となることは間違いない。現在建設が進められているキャンパスインでは、全寮制のもと新入生の学習と生活を、積極的に支援する。また、第一学次の教育体制として、すでに重点化していた基礎学力の強化や入門的歯科医学教育を一層充実するべく、初年次教育体制の充実整備に主力を注いでいるところである。一方、病院において

は、診療機能の一層の拡大と充実ならびに卒後臨床研修の場として、最新の機能を備えた大学病院にふさわしい新病院の建設計画が鋭意進行中である。大学院もいよいよ学年進行最終学年を迎え、すでに優れた研究論文により第三学年次での学位取得者も決定し、独立専攻系大学院として初めての課程博士が誕生する運びである。大学院の母体である総合歯科医学研究所における研究も国際的な評価は益々高まり、新たな国際共同研究のプロジェクトも立ち上がりつつある。

本学学生ならびにご父母の皆様、校友会、本学教職員各位におかれては、本学のこのような現状と新しい取り組みに対するご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。 執拗に戻ってくる寒さに耐えながら咲きつづけてきたウメの花が盛りとなり、朝晩の寒さとはもかく、昼間は暖かく、いよいよ花咲く楽しい春を迎えることとなる。しかし、春の遅い北海道方面では、まだまだ冬の気配が濃く、春のくるのは一カ月も先のことになる。

『Journal of Hard Tissue Biology』に 研究論文が掲載

第3学年清水麻理子さん

硬組織再生生物学会の機関誌『Journal of Hard Tissue Biology』の第十四巻三号に第三学年の清水麻理子さんの研究論文「マウスにおける形成期下顎角部の組織学的並びに免疫組織化学的観察」(Immunohistochemical Examination of Developing



清水麻理子さんは、第一学年時に私の担当する教養セミナー「発生物学入門」を受講したときより、実験の補助をしながら手技を習得し、同学年の後期試験後の春休みから研究を開始。年末年始、春休み、夏休みなどの期間に研究を遂行して来た。その成果は、昨秋の岡山における国際シンポジウムでポスター発表し、The Student Investigator Awardを受賞。最終段階のまとめとこの研究論文を書き上げ、投稿したのである。

清水さんは、「第一学年のときから川上教授のもとに通い研究を行って来ました。その集大成としての論文が完成し、とても嬉しく、そして貴重な体験をさせて頂いたことに感謝しています」と語ってくれた。 十八日は彼岸の入り。「白天の中を行きて昼夜二分。二十一日は春分の日で、お彼岸の中。いよいよ「日永」の候に入る。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役 お天気コンサルタント

ありが 厚し 有賀 淳

寒い長い冬だった。待ちに待った三月だが、この月も三分は寒さが残る。

冬至の日に八十一枚の梅の花びらを描いて、毎日一枚ずつ色をぬり、全部に色がぬり終ると暖かくなる、という「九九消寒法」の習わしが昔の中国にあったという。冬至から八十一日目は三月十二日に当たり、ちょうどこの日は日本でも、奈良の東大寺二月堂で寒さの終りを告げる「お水取り」の儀が行われる。

堂前の若狭井の水を飲めば、患いを除くという言い伝えがあるが、またこの日を境として春がやってくるという言い伝えもある。

第三種郵便物認可

永田町便り

(127)



首相の靖国神社参拝を考える

参議院議員
本学理事

法藤道夫

小泉純一郎首相は二〇〇五年十月十七日、首相になって五回目の靖国神社参拝を行った。首相の靖国参拝については、以前にも当欄で取り上げているが、国際的にも大変な注目を集めている重要テーマであるだけに、再度論じてみたい。

視点



小泉首相が五回目の参拝をする前の昨年九月末には、大阪高裁が首相の靖国参拝を違憲と判断しているが、司法判断の影響を考慮してか、今回は参拝方式も従来とは一変させ、本殿への昇殿を見送り、一般の参拝客と同じように拝殿で賽銭を投じる形式を取るなど、殊更に公式参

拝ではなく、私的参拝であることとを強調している。ところが、首相の配慮にもかかわらず、参拝中止を強く要望していた中国や韓国は一斉に反発し、中韓両国との関係は改善の兆しすら見えてこない状況が生じてきている。

福田康夫官房長官が中心となり、私的諮問機関を設置。その後一年間の論議を経て二〇〇二年十一月に、無宗教の恒久的な国立施設が必要」との報告書をまとめたものだった。

だが、その直後の二〇〇三年一月に首相が三回目の靖国参拝を敢行し、その後も折に触れ、靖国に代わる施設はない」「靖国は靖国である」などと繰り返し発言し、この構想は頓挫してしまっ

た。自民党の山崎 拓前副総裁や公明党の神崎武法代表、民主党の鳩山由紀夫幹事長らが

ある意味では国家の将来を決しかねない大問題であり、首相の一存でその採否を決定していいものではない。靖国参拝を行つべきかどうか、思い迷いつつあったとするならば、参拝に伴うプ

ラッシュや超党派の国会議員で組織する議員連盟「国立追悼施設を考える会」も腰砕けに終わっている。問題の重要性にかんがみ、重複するのは承知の上で、本欄二〇〇五年一月号を再録する。

「靖国神社公式参拝」は、一月に首相が三回目の靖国参拝を行つた。その後も折に触れ、靖国に代わる施設はない」「靖国は靖国である」などと繰り返し発言し、この構想は頓挫してしまっ

た。自民党の山崎 拓前副総裁や公明党の神崎武法代表、民主党の鳩山由紀夫幹事長らが

ある意味では国家の将来を決しかねない大問題であり、首相の一存でその採否を決定していいものではない。靖国参拝を行つべきかどうか、思い迷いつつあったとするならば、参拝に伴うプ

ラッシュや超党派の国会議員で組織する議員連盟「国立追悼施設を考える会」も腰砕けに終わっている。問題の重要性にかんがみ、重複するのは承知の上で、本欄二〇〇五年一月号を再録する。

「靖国神社公式参拝」は、一月に首相が三回目の靖国参拝を行つた。その後も折に触れ、靖国に代わる施設はない」「靖国は靖国である」などと繰り返し発言し、この構想は頓挫してしまっ

た。自民党の山崎 拓前副総裁や公明党の神崎武法代表、民主党の鳩山由紀夫幹事長らが

ある意味では国家の将来を決しかねない大問題であり、首相の一存でその採否を決定していいものではない。靖国参拝を行つべきかどうか、思い迷いつつあったとするならば、参拝に伴うプ

『歯科医学』と『歯学』呼称の

時期的考察について

その意味するもの

創立者

矢野 康

所謂「歯学」論については、二〇〇四年十月一日号の本紙に「進化には長い時間を要するか」として拙文を載せておいた。しかもこの問題については折にふれて話もしている。そのま

まのほうは終りにしようと書いていた。が、今回日歯大で学部名の変更があったり、学長（理事長）の見解も紹介されたりしたので、重複に恥入りつつも再び同じような内容を書かせて頂くことにした。

最近筆者も、これらの諸問題について二、三のオーナー理事長との談合を強く希求していた矢先でもあったので、この度の日歯大の名称変更については大いに賛意を抱いた次第だ。しかし基本的問題から考察すると、

梅やまれる側面もないではない。日本の遅れた医療界の意識というものから考えるとそんなに生易しいものではないからであ

る。筆者自身、現在もし改めて選択し直せといわれるならば、医療界の謂は特殊の道を歩み続けている歯科医の道は選ばないかもしれない。いやそれより逆に日本の医療界の意識が特別に低く、ときに怖いこともあるので、医の道を選ばず文科が政治、経済方面にでも進むかもしれない。

本来、科学としての歯科医学というものは複雑且つ高度で、医学分野のなかでも特殊の困難なカテゴリーに属するものと考

えているのだが、医師法（特に敗戦後の）や頭の堅い一般認識からすると、どこまでも手工芸的、職人的に捉えようとする江戸時代の意識が脳底のどこかにこびりついていて離れようしない。こんな実情下だから日歯大の新名称に対し、それだけでは、稍悔やまれる」と申し上げた訳だ。

筆者が子供の頃、歯科への道を選んだのはほかでもない親戚に優れた歯科医がいたこと、戦時下だったから、手つと早く医者になるには単科の歯科が生

軍隊時代には歯科と薬剤将校の最高位が一般軍医の中將に比べ少将であったりして差別はあった。が、そんなに感ずるほどのものではなかった。そして入学し卒業したのも歯科医学専門学校の卒業生であり、当時は歯学専門学校とは呼ばなかった。

歯科医専入学後は一年生から一般医専生と同様に一般基礎医学と共に教養科目とそれに加え

て歯科系実習が加わり、出欠が

年となった。昼や夕の講義や実習のとき、あの水道橋の赤煉瓦に届く二コライ堂の鐘の音は、どんなにか疲労した頭を慰め休ませてくれたことだろう。こんな一般医学の上に更に特別の歯科系理工学を加えた過重負担な科学の道に

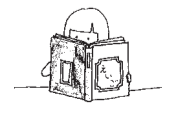
将来差別が待っているなどと思つた学生がいたのだろうか。一九四〇（昭和十五）年頃には歯科医専の大学昇格運動が次

た。その後の数年間は、新設の歯科大学が生まれるに際して医科と歯科を態々分離させ、医学

に対する「歯科医学ではなく歯学」と名づけたのであった。それではこの作業は誰がやったのか？それは占領軍のGHQで

間その他の宗教団体は、宗教法人として登記されている。その点では一般の会社と変わるところがない。登記されている会社に大小さまざまな形態があるように、神社、仏閣これすべて登記上は一つの法人に過ぎない。人間が等しく「法の下の平等」として扱われるように、何十万とも数えられる神社、仏閣の間に差を設けて許されるわけがない。

カールソンの英語!!!



以前、娘が小学生だったころ松本にある鶴林堂という本屋さんの名前を間違えて、「つるりんどう」と呼んだことがありま

す。その時は、家族で大笑いしたのですが、考えてみると私も娘を笑えない間違いをたくさん

しています。だいぶ前、義母から来た手紙の最後に「かしこ」と書いてあ

ったのを讀んだとき、私は、はて、「かしこ」なんて誰だつたっけ！と一瞬真剣に悩みました。外国人の私が、二カ国語が飛びかう環境で生活していると、勘違いや聞き間違いは日常茶飯

事です。先日、日本語の話の中に、「ビッグイベント」というカタカナ言葉が出てきました。が、私には「びつくり弁当」と聞こえました。たまたま前後関係がお昼の話だったので、私はしばらく弁当の話かと思つて

ました。また、以前、この欄でも紹介した、英語の保育園をやっているカナダ人の友人宅も、同様にバイリンガル環境なので、時々勘違いが起ります。私が先日立ち寄ったときも、たまたま小さな女の子が来ていて、玄関から上がって行くつもりでいま

「しなやか」に締めくくる

田中客員教授公開講義



講義する田中客員教授

本年度の田中康夫客員教授による公開講義の最終回が、一月三十一日(火)に行われた。第一学年の後期授業「入門歯科医学」の一環として始められたこの講義は計七回を数え、学外からも注目を浴びた。

田中客員教授の講義は歯科医学のみにとどまらず、聴く者を引きつける独特の語り口で、政治・経済・産業など、多彩な分野からさまざまな話題を取り上げて、現代社会においてキーワードとなる用語や考え方について解説した。そして、そこに隠されたテーマを巧みに歯科医療にリンクさせながら、医療・歯科医療に求められているものは何か、歯科医師としてあるべきは社会人としてどう生きていくべきかについて示唆した。また、昨年の十二月には、学生主催による「田中客員教授を囲む話りの会」が開かれるなど、その人気は抜群であった。

最終回となるこの日の講義では、歯科医学を学ぶうえでの心構え、社会に求められる歯科医療について触れ、学生には理想的歯科医師像としての三つのキーワード「アルゴリズム、ヒューリスティック、アダプクシ

ョン」を示し、「大学では最初に学ぶ基礎知識、すなわちアルゴリズム(マニュアル的な問題解決)を確かなものにしなければならぬ。そしてそれを基盤としたヒューリスティック(洞察的問題解決)に磨きをかけ、それでも問題が解決できない場合には、知性・感性・温性(人間としての温かさ)を備えたい。アダプクシオン(創造的問題解決)ができる歯科医師にならなければならない」と解説した。また、「患者さんの喜びとなることを、自分自身が発見あるいは実現できたことに喜びを見いだすことが、相互愛情産業としての歯科医療である」と結んだ。講義を終えた田中客員教授に第一学年を代表して青島康子さんが花束を贈呈すると、聴講に詰めかけた一般の方々や教職員から、今後の変わらぬ活躍に期待をこめた盛大な拍手がわきあがった。

業務課・小松正紀さん

省エネへの貢献に表彰

法人室業務課長心得の小松正紀さんが二〇〇五年度エネルギー管理功績者(電気部門)として、経済産業省中部産業局の中部地方電気使用合理化委員会と



表彰される小松さん(右)

員長表彰者の一人に選ばれ、二月十日(金)名古屋市中電ホールにて行われた表彰式で、三田敏雄委員長より表彰状が授与された。

同委員会は、毎年、省エネへの貢献が顕著な個人並びに工場・事業所を表彰する。小松さんの表彰は、総合歯科医学研究所、ハイテクセンターの太陽光発電システム、創立三十年記念棟など、新しい施設における省エネへの取り組みと管理能力が高く評価されたものである。小松さんは本学で電気主任技術者として、その専門技術・知識を駆使し、日々の業務に励み責務を果している。これまで、本学の電気・機械などの設備が安全に維持されているのも小松さんら技術者の陰の働きがあることを忘れてはならない。

歯科医学生めざして

一般入試
センター利用入試
編入学試験

受験シーズン真っ只中、本学の一般入試(前期)が、本学・東京・大阪の三会場で二月二日(木)に実施された。

歯学部歯学科の募集人員百十三人のうち、一般入試(前期)の定員は約四十三人。これに対し三会場合せて百三十九人が受験し、競争倍率は三・二倍であった。午前九時から始まった小論文のテーマは、「モラル(倫理観)



一般入試(前期)東京会場

について、最近の事象を参考に述べてほしい」と、受験生は真剣な表情で答案用紙に向かい鉛筆を走らせていた。続いて試験は、外国語(英語)、選択科目(数学、物理、化学、生物から一科目選択)、面接が行われた。合格発表は二月八日(水)に行われ、学内掲示および本学ホームページ掲載とともに合格者へ文書で通知された。

また、大学入試センター試験利用入試の個別試験は、二月十三日(月)本学において行われた。約十人の定員に対して三十一人が受験、競争倍率は三・一倍であった。同日は、編入学試験も行われ八人が受験した。合格発表は二月十七日(金)、学内掲示とともに、合格者へは文書で通知された。

このほか、一般入試(中期)が二月二十八日(火)に実施され定員約二十五人に対し六十三人が受験した。合格発表は三月三日(金)に行われる。残す一般入試(後期)は三月二十二日(水)、本学において行われる。

主張 インテリゲンチヤたれ! 「プロ」であれ!!

歯学部第二十九期生、衛生学院歯科衛生士科二十九期生、技工士科二十八期生がまもなく社会に巣立っていく。第一期生から教育に携わり、卒業式にも皆勤を続けてきた者として、学園の確かな歩みを今さらながら実感させられる。

創立者の矢ヶ崎 康先生の卒業生への愛情に溢れた言葉、すでに故人となられた北村勝衛先生、加藤倉三先生、小林茂夫先生はじめ歴代学長の心のこもった告辞には、いつも胸が一杯になるような感動を受けたものだ。

たとえば、一九八六年三月の第九期卒業に際して、矢ヶ崎先生は「心からの愛をこめて」と題して次のようなことを述べられている。

「諸君は本日からインテリゲンチヤである。それは歯科医師だからではなく、本学で学び積み重ねてきた教養の故である。だから、単なる医療職人になつてはならない。豊かな教養によって社会に話しかけ、社会を正しい歴史の軌道に乗せ、指導し得る実践的能力のある医師! たくましいインテリゲンチヤとして歩んでいってほしい!」

「教育はひとえに愛である(桔梗ヶ原随想最終回)」が、創立者の一貫した信念である。この高年齢ではあるが、本年も素晴らしいお話がつかえるものと期待させていたところ、卒業式や入学式にはさまざまな来賓が臨席されて「祝辞や励ましの言葉を贈ってください(近年は式後の祝賀会や謝恩会の席上となる)が多

いがある。通り一遍の「あいさつもあるが、なかにはいつまでも心に刻み付けておきたいような言葉を聞くことができる。一九八六年に入学されたインディアナ大学歯学部長H.W.ギルモア博士の「professionalism」もそのひとつだ。

「プロフェッショナル」専門職であることによりも必要となる職業としては、昔から医師と法律家がその代表とされてきた。合衆国では「medical school」と「law school」は通常の四年制大学を卒業後に入学する学校であり、わが国でも医・歯学部は別格に位置づけられている。

「医療職人」あるいは「歯の修理屋」にとどまるならばいざ知らず、社会の発展にも貢献すべきインテリゲンチヤとしてのユースティック、アダプクシ

くはない。「学校ではこう教わったから...」などといって十年一日のごとき術式を固守していることは許されない。医学の進歩に取り残されないために continuous education(生涯学習)がどうしても必要である。高度情報化社会となった今日では、患者側が治療内容を評価して「良い医者」を選択することが当たり前となりつつあるから、不勉強では医療経営もおぼつかなくなりかねない。ちなみに、スポーツや芸能の世界であれば、「プロ」とは「お客さんが喜んでゼニを出してくれよう」でもある。

生きた人間を対象とする医療の世界では、患者さんからの信頼されるのが成功のキギである。新しい知識を積極的に取り入れる柔軟な頭と自由な発想、そして自分の責任での決断と行動が、専門家として尊敬されるためのなによりも重要な条件であるのだ。(笠原 浩)

体連・文連新役員決まる

歯学体の主管に向け一致団結を

このほど、二六年度の体育連絡協議会と文化連絡協議会の役員が決定した。

- | | |
|------|-----------------|
| 委員長 | 山中 教之(4年 自然科) |
| 副委員長 | 田口 尚吾(3年 水泳部) |
| 副委員長 | 村上 香織(3年 水泳部) |
| 総務 | 出口 季史(3年 弓道部) |
| 会計 | 喜多村洋幸(3年 馬術部) |
| 企画 | 成山 博之(3年 日本拳銃部) |
| 活動監 | 八田 知也(3年 バレー部) |
| 活動監 | 弘田 正晴(3年 ゴルフ部) |
| 文連役員 | |
| 委員長 | 寺前 裕介(4年 自然科) |
| 副委員長 | 的場 寛(3年 美術部) |
| 総務 | 中安 喜一(3年 写真部) |
| 会計 | 若月 喜仁(3年 軽音楽部) |



発表で開かれた体連文連総会

第三種郵便物認可

大学院セミナー

2月に開催された大学院セミナーのなかから、正司喜信先生のセミナーを紹介します。

・27日 新潟大学大学院歯学総合研究科歯科矯正学分野講師

山田一尋先生

顎関節症の鑑別診断：臨床の現場より

正司 喜信先生
正司 喜信先生



講演する正司先生

2月10日(金)に、本学6期生・正司喜信先生をお招きし「顎関節症の鑑別診断：臨床の現場より」と題してご講演頂いた。正司先生は、本学卒業後勤務医を経験された後、オーストラリア・シドニー大学で歯科補綴学の臨床研修と修士課程を修了し、香港大学で生理学講座の研究助手として勤務された。その後、米国・ニュージャージー医科歯科大学で口腔顔面痛研修プログラムを修了、米国口腔顔面痛学会(AAOP)の認定医を取得された。帰国後、日本では唯一の口腔顔面痛を専門とする歯科医院を東京で開業され今日に至っている。

講演では、2000年のNICDRによる「今後の歯科医療は単に歯や歯周組織だけでなく、口腔、顎、顔面に生じる疾患や病変の診断・治療・予防を行うべきである」という提案を示された。また、歯科医師は日常の臨床の中であらゆる種類の疼痛に遭遇する可能性があり、疼痛を的確に診断し、歯科治療で対応できるものか判断する能力を養うことの重要性を強調された。

また、歯科医師による口腔顔面痛の鑑別診断の手順として、口腔内の疾患を診査し、問題がなければ、次に口腔外の咀嚼筋や顎関節などの診査、そして咀嚼系以外に原因を持つ痛みの診査、と順次進めることが望ましいと説明された。その上で、歯痛を訴える典型的な歯髄炎の症例、歯痛を訴えるが顎関節症であった症例、さらに歯痛の原因が片頭痛であった症例を提示しつつ、問診から顎関節・咀嚼筋・頸部の診査、診断的麻酔や画像診断をどのように行うか、非常に明快かつ論理的に説明していただいた。最後に、口腔・顔面に痛みを訴える患者さんを的確に診断・治療するためには、「歯」や「口腔」の知識だけではなく、末梢神経や中枢神経の基本的な解剖学と生理学への理解が不可欠であることを強調しつつ講演を終えられた。

歯科の患者さんの訴えで「痛み」は一般的であるにもかかわらず、痛みが治らず歯科医院を転々とする患者さんも少なくないといわれている。このような不幸な患者さんを生み出さないためにも、本学でも、臨床・教育・研究の各段階で「痛み」に興味を持ち研鑽することの重要性を実感した。

(総合歯科医学研究所顎口腔機能制御学部門 助教授 加藤隆史)



長野県内の多くの企業関係者が参加

第6回歯科医療技術研究会 企業の先端技術と 大学の研究ニーズの融合をはかる

第六回歯科医療技術研究会が二月十四日(火)、本館六〇一教室で開かれ、本学教員をはじめ長野県内の企業関係者ら約四十人が参加した。同会は、本学

および信州大学、財団法人・長野県テクノ財団らが、地元の企業と共に歯科医療分野における革新的な機器やシステムの開発を目指すもので、歯科理工学講座の伊藤充雄教授が理工連携コーディネーターとして推進役を務めている。今回は企業三社がプレゼンテーションを行い、切削加工や臨床検査機器の設計製作ノウハウ、水ジェット誘導式レーザー加工技術などの保有技術を発表した。

最後に、小澤英浩学長が「硬組織研究の現状と展望」と題して講演を行い、本学大学院の基礎である総合歯科医学研究所に配置されている最新鋭の分析機器の紹介とともに硬組織研究の概要を解説、「県内の企業は優れた工業テクノロジを持っていて、県テクノ財団の協力を仰ぎながら理工連携を積極的に推進し、本学の研究と企業の技術を融合させて地域に貢献していきたい」と結んだ。

AEDの操作を習得 普通救命講習会

本講習会は、地域医療に携わる本学職員が当然の義務として身につけておくべき救命に関わる知識・技術の習得を目的としたもので、八十三人の教職員が参加し、松本広域消防局塩尻消防署員による指導を受けた。同署によると、救急現場に居合わせた一般市民による早期心肺蘇生と除細動は、心停止者を救う上で非常に重要なファクターであるとのこと。



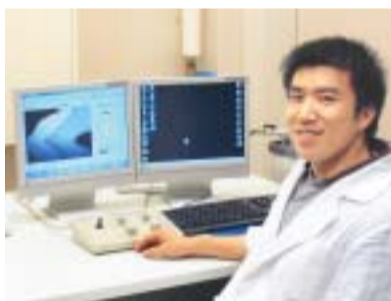
塩尻消防署員の指導を受ける参加者

講習会場となった図書館学生ホールでは、人工呼吸、心臓マッサージなどによる心肺蘇生法とAEDを用いた心肺蘇生法の手順について、マネキンを使った実技講習を受けた。消防署員によるポイントを指摘しながら的確な指導に、参加者は皆真剣な面持ちで実技に取り組んでいた。AEDは、使用の際に音声ガイ

ドによる操作手順の案内があるため、参加者からは初めての者でも比較的容易に扱えるとの感想が聞かれた。本学は緊急の場合に備え、昨年AED三台を増設し、計四台を常設している。なお、講習を終えた八十三人の職員全員に普通救命講習修了証が授与された。

客員研究員・許強先生

研究成果を手に中国へ帰国



研究に取り組む許先生

再建学部門・佐原紀行教授の指導のもと、乳歯エナメル質へのフッ素イオン導入実験を行い、その効果を観察研究した。そしてこの結果は、第四十四回日本小児歯科学会大会(五月二十五日(木)～二十六日(金)、松本市)および第八十四回IADR総会(六月二十八日(水)～七月一日(土)、オーストラリア・ブリスベン)において発表予定である。

また、研修期間中には国内主要都市の医療機関などの視察も行い、日本の医療実態などについても見識を深めた。

許先生は、総合歯科医学研究所健康増進口腔科学部門・宮沢裕夫主任教授、硬組織疾患制御

許先生は、総合歯科医学研究所健康増進口腔科学部門・宮沢裕夫主任教授、硬組織疾患制御

許先生は現在、上海第一医科大学大学院に在籍し、本学名誉教授の石 四蔵先生(同済大学児童口腔医学研究所長)の指導のもとで口腔医学を専攻している。

許先生は現在、上海第一医科大学大学院に在籍し、本学名誉教授の石 四蔵先生(同済大学児童口腔医学研究所長)の指導のもとで口腔医学を専攻している。

Economic News

内外の経済 2月23日付

日本	16,096.10円
米国	11,069.22ドル
金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	2,240円
買い(1グラム)	2,178円
白金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	4,150円
買い(1グラム)	4,025円

東京外国為替相場と各国定期預金金利(3カ月物)	
米ドル	106.40円 0.70%
英ポンド	202.00円 1.90%
ユーロ	139.85円 0.50%
スイスフラン	91.00円 0.01%
タイバーツ	2.84円 0.01%
日 円	0.02%

(シティバンク調べ)

27日(月) 4月2日(日) 春季休業(歯科衛生士科第1学年)

24日(金) 一般入学試験(後期)

22日(水) 一般入学試験(後期)

15日(水) 第38回歯学体冬期大会

12日(日) 卒業証書・学位記授与式

9日(木) 松本歯科大学衛生学院

2日(木) 松本歯科大学

2日(木) 大学院学生選抜試験(2次) 合格者発表

2日(木) 歯科理工学国家試験(本学)

3日(金) 一般入学試験(中期)合格者発表

5日(日) 歯科衛生士国家試験(東京)

9日(木) 二〇〇五年度

松本歯科大学

松本歯科大学衛生学院

卒業証書・学位記授与式

12日(日) 第38回歯学体冬期大会

15日(水) アメリカンソフトボール部門

スキー部門

22日(水) 一般入学試験(後期)

24日(金) 一般入学試験(後期)

27日(月) 4月2日(日) 春季休業(歯科衛生士科第1学年)

3月行事予定

受験生の皆さんへ
見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般入試(後期)

3月22日(水)

出願期間
3月6日(月)～3月15日(水)

募集人員 約10人
試験会場 本学

お問い合わせ
HOT LINE 0263 54 3210
松本歯科大学 広報課
www.mdu.ac.jp